

第6次白老町総合計画策定に向けた
「しろおい未来フォーラム&
まちづくりワークショップ」

【結果報告書】

令和元年8月

白老町
企画課企画グループ

「しらおい未来フォーラム」

講演要旨

(P1 ~ P6)

しらおい未来フォーラム「白老町の将来のまちづくりを考える」講演要旨

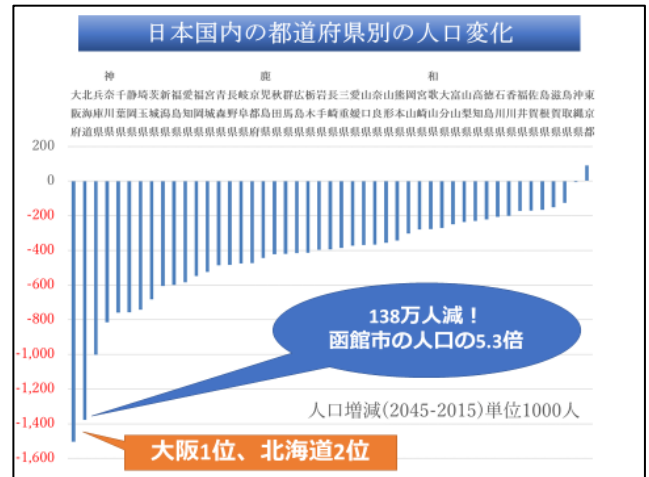
時間：令和元年8月9日（金）18：00～18：30

場所：白老コミュニティセンター2階 201号室

講師：北海学園大学工学部生命工学科 教授 鈴木 聡士

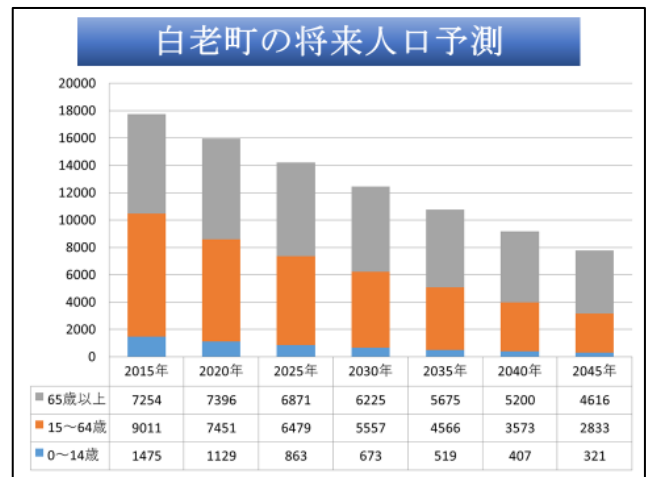
1. アジア諸国と日本国内の人口変化（スライドページ 1～5ページ）

- ・アジア諸国の中でも日本が最初に、人口減少社会に突入した。
- ・国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の2015年から2045年にかけて国内の人口増減を比較すると、人口が増加するのは東京都のみであり北海道は大阪府に次ぎ2番目に人口減少の幅が大きい。
- ・一方で、北海道は大阪府より人口減少に直面している市区町村の割合が高く、65歳以上の割合も高い状況であることから、北海道は人口減少社会の世界最先端地域とも言える。
- ・つまり、これから北海道の市区町村が取り組む人口減少対策は世界的にも前例がないことであり、その点は誇らしいことでもある。



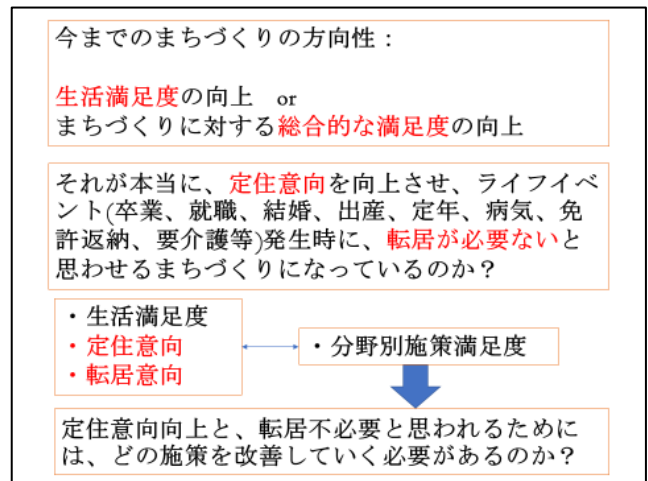
2. 白老町の人口変化（スライドページ 6～10ページ）

- ・現在総人口 16,000 人程度に対し、約半数近くが 65 歳以上という構成になっている。
- ・社人研の推計によると 2045 年には総人口が 8,000 人を下回る予測であり、その中でも若い世代（0～14 歳、15～64 歳）が大きく減っていく状況がある。
- ・人口動態を考える上で大切なのが、自然増減（出生数と死亡数）と社会増減（転入数と転出者）の2つの要素である。
- ・白老町は毎年、自然増減では約 200 人ずつ、社会増減では約 100 人ずつ、どちらも減少している状況にある。



3. 今後のまちづくりのあり方（スライドページ 11～13ページ）

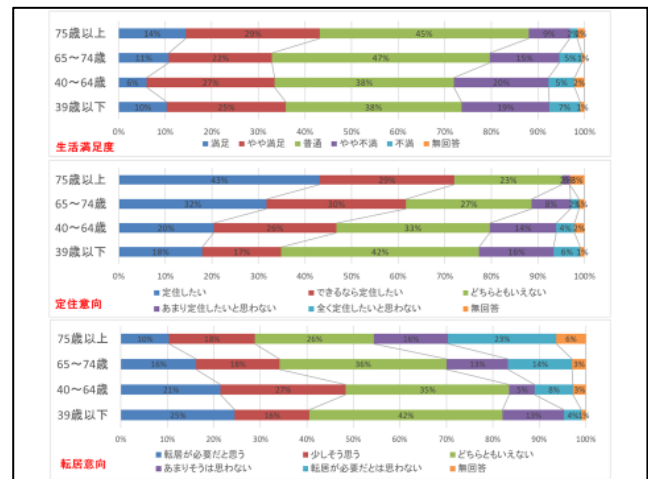
- ・今後のまちづくりを考える上で、重要なデータの1つとなるのが町民意識調査である。
- ・今回の町民意識調査では①生活満足度(今の生活、まちづくりにどの程度満足しているか)、②定住意向(白老町にこれからも住み続けたいか)、③転居意向(住み続けたいが、将来的に何かしらのライフイベントがあった際に、転居が必要ないと思わせるまちづくりになっているのか)の3点を調査した。
- ・生活満足度、定住意向、転居意向の3つの指標と従来の分野別施策満足度を総合的に分析し、住み続けられるまちに必要な要素を導き出していく。



4. 町民意識調査結果から見たまちの姿（スライドページ 14ページ）

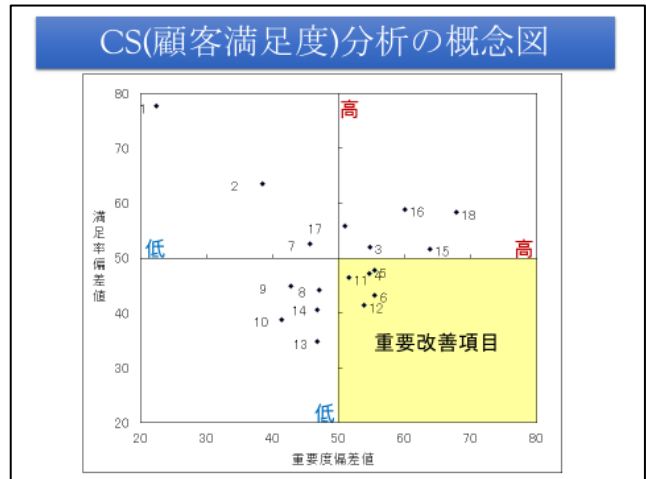
【全体的な傾向】

- ・生活満足度は、39歳以下の世代から上の世代（40～64歳、65～75歳）にかけて下がっているが、75歳以上の層になると再び上昇している。
- ・定住意向は、生活満足度の傾向とは全くことなり、高齢世代になるほど定住意向が高くなっている。
- ・転居意向は、若い世代は何かしらのライフイベントがあると転居する必要があるという割合が多かった。
- ・このように満足度だけではなく、定住意向や転居意向は全く異なる傾向となり、今後のまちづくりではその点を深く分析していく必要がある。



【CS（顧客満足度）分析の結果】（スライドページ 15ページ）

- ・住民を顧客と見立て、重要度と満足度の相関を示したものが右図である。
 - ・そのうち、重要度が高いのにも関わらず、満足度が低いもの（「重要改善項目（黄色着色部）」）は定住・転居意向に悪影響を及ぼすため早急に対処する必要がある。
- ※右図はイメージ図



【各世代別のCS分析の傾向】

- ・「生活満足度」と「定住意向」、「転居意向」の3つの関係性を示した。
- ・各着色部の順位の差があればあるほど、生活満足度が高くても、住み続けられるかどうかは別問題であること（乖離）を示していることになる。

●39歳以下（スライドページ 16ページ）

- ・生活満足度、定住意向から見れば、「子育て支援」は4番目であるが、転居意向においては1番目となっていることから、子育て支援が要因により、転居する必要性が出てくるということであり、その視点からまちづくりを議論する必要性があることが伺える。
- ・公共交通も生活満足度自体は7番目と、今時点ではそこまでの必要性がないと感じているが、将来的に住み続けられるかどうかという点では3番目となっており、その重要度が高いことが伺える。

39歳以下			
降順	問2 生活満足度	問3 定住意向	問4 転居意向
1	問20-5 (基本方針5 自治)	問36-5 (⑤障がい者(児)福祉)	問36-4 (④子育て支援)
2	問58-2 (②行財政運営)	問21-12 (⑫公共交通機関)	問58-2 (②行財政運営)
3	問42-4 (④社会教育)	問20-5 (基本方針5 自治)	問21-12 (⑫公共交通機関)
4	問36-4 (④子育て支援)	問36-4 (④子育て支援)	問42-3 (③高校・各種教育機関)
5	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	問21-6 (環境美化・衛生)	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)
6	問21-8 (土地利用・住環境)	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	問36-5 (⑤障がい者(児)福祉)
7	問21-12 (⑫公共交通機関)	問58-2 (②行財政運営)	問42-2 (②小・中学校教育)
8	問21-11 (⑪道路)	問36-3 (③地域福祉)	問42-4 (④社会教育)
9	問42-3 (③高校・各種教育機関)	問42-9 (⑨人権)	問20-5 (基本方針5 自治)
10	問49-3 (③商工業)	問42-2 (②小・中学校教育)	問36-3 (③地域福祉)
11	問36-5 (⑤障がい者(児)福祉)	問21-13 (⑬地域情報化)	問42-9 (⑨人権)
12	問42-2 (②小・中学校教育)	問42-7 (⑦スポーツ・レクリエーション)	問36-2 (②地域医療)
13	問21-3 (治水・海岸保全)	問36-6 (高齢者福祉)	問20-4 (基本方針4 産業)
14	問20-4 (基本方針4 産業)	問42-3 (③高校・各種教育機関)	問21-13 (⑬地域情報化)

●40-64歳（スライドページ 17ページ）

- ・地域医療の生活満足度は18番目である。満足度だけで判断すると見落とされるが、実は40～64歳の層にとっての将来的な転居意向では1番重要な要素である。

40-64歳			
降順	問2 生活満足度	問3 定住意向	問4 転居意向
1	問20-5 (基本方針5 自治)	問42-3 (③高校・各種教育機関)	問36-2 (②地域医療)
2	問58-1 (①協働のまちづくり)	問36-2 (②地域医療)	問58-2 (②行財政運営)
3	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	問20-4 (基本方針4 産業)	問21-12 (⑫公共交通機関)
4	問42-3 (③高校・各種教育機関)	問36-3 (③地域福祉)	問36-3 (③地域福祉)
5	問36-3 (③地域福祉)	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	問20-2 (基本方針2 健康・福祉)
6	問20-2 (基本方針2 健康・福祉)	問20-5 (基本方針5 自治)	問42-3 (③高校・各種教育機関)
7	問58-2 (②行財政運営)	問20-2 (基本方針2 健康・福祉)	問20-5 (基本方針5 自治)
8	問42-4 (④社会教育)	問21-8 (土地利用・住環境)	問20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)
9	問20-4 (基本方針4 産業)	問58-2 (②行財政運営)	問49-3 (③商工業)
10	問42-9 (⑨人権)	問42-9 (⑨人権)	問58-1 (①協働のまちづくり)
11	問49-3 (③商工業)	問49-3 (③商工業)	問21-8 (土地利用・住環境)
12	問36-6 (高齢者福祉)	問58-1 (①協働のまちづくり)	問42-2 (②小・中学校教育)
13	問42-7 (⑦スポーツ・レクリエーション)	問21-3 (治水・海岸保全)	問49-2 (②港湾)
14	問49-5 (⑤農林業)	問21-12 (⑫公共交通機関)	問20-4 (基本方針4 産業)
15	問21-12 (⑫公共交通機関)	問21-11 (⑪道路)	問49-5 (⑤農林業)
16	問21-8 (土地利用・住環境)	問42-7 (⑦スポーツ・レクリエーション)	問42-7 (⑦スポーツ・レクリエーション)
17	問21-13 (⑬地域情報化)	問42-4 (④社会教育)	問42-4 (④社会教育)
18	問36-2 (②地域医療)	問20-1 (基本方針1 生活・環境)	問49-1 (①産業連携・雇用)

●65-74 歳、75 歳以上 (スライドページ 18~19ページ)

・「39 歳以下」「40-64 歳」に比べ、満足度や各意向とのばらつき (乖離) がより大きくなってくる。

65-74歳			
順位	間2 生活満足度	間3 定住意向	間4 転居意向
1	間20-5 (基本方針5 自治)	間21-1 (治安・犯罪防止)	間20-8 (基本方針5 産業)
2	間49-3 (労働工業)	間42-1 (土地利用・住環境)	間31-8 (土地利用・住環境)
3	間49-4 (観光)	間36-3 (地域福祉)	間21-12 (公共交通機関)
4	間20-6 (高齢者福祉)	間21-11 (防災)	間21-1 (治安・犯罪防止)
5	間20-10 (子育て支援・住環境)	間49-2 (教育)	間42-8 (環境保全)
6	間20-4 (基本方針4 産業)	間20-5 (基本方針5 自治)	間36-2 (地域福祉)
7	間21-2 (防災)	間36-6 (高齢者福祉)	間36-2 (地域福祉)
8	間20-5 (基本方針5 自治)	間20-3 (基本方針5 自治)	間36-4 (高齢者福祉)
9	間20-1 (基本方針1 生活・環境)	間36-4 (高齢者福祉)	間42-1 (土地利用・住環境)
10	間21-1 (治安・犯罪防止)	間42-8 (環境保全)	間36-4 (高齢者福祉)
11	間21-11 (防災)	間42-8 (環境保全)	間36-2 (地域福祉)
12	間21-6 (環境美化・衛生)	間42-4 (社会教育)	間49-2 (労働工業)
13	間20-2 (子育て支援)	間49-2 (労働工業)	間49-2 (労働工業)
14	間36-3 (地域福祉)	間58-1 (治安・犯罪防止)	間42-1 (土地利用・住環境)
15	間49-5 (農業)	間49-2 (労働工業)	間42-8 (環境保全)
16	間49-6 (観光)	間42-3 (治安・文化)	間21-2 (防災)
17	間21-13 (防災)	間42-3 (治安・文化)	間21-2 (防災)
18	間42-9 (労働)	間42-3 (治安・文化)	間42-3 (治安・文化)
19	間49-1 (産業連携・雇用)	間42-3 (治安・文化)	間42-3 (治安・文化)
20	間36-2 (地域福祉)	間21-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
21	間20-2 (子育て支援)	間21-7 (公園・緑地)	間49-4 (労働)
22	間20-1 (基本方針1 生活・環境)	間21-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
23	間42-3 (治安・文化)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
24	間21-12 (公共交通機関)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
25	間20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
26	間42-8 (環境保全)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
27	間21-3 (治安・文化)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
28	間36-2 (地域福祉)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
29	間21-7 (公園・緑地)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
30	間42-7 (公園・緑地)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
31	間42-7 (公園・緑地)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)
32	間42-7 (公園・緑地)	間42-3 (治安・文化)	間49-4 (労働)

75歳以上			
順位	間2 生活満足度	間3 定住意向	間4 転居意向
1	間20-5 (基本方針5 自治)	間36-4 (高齢者福祉)	間36-4 (子育て支援)
2	間49-5 (農業)	間42-1 (土地利用・住環境)	間42-8 (環境美化・衛生)
3	間36-4 (高齢者福祉)	間49-1 (産業連携・雇用)	間20-5 (基本方針5 自治)
4	間20-4 (基本方針4 産業)	間21-8 (土地利用・住環境)	間42-9 (労働)
5	間42-1 (土地利用・住環境)	間21-3 (治安・文化)	間21-8 (土地利用・住環境)
6	間42-9 (労働)	間42-4 (社会教育)	間21-2 (防災)
7	間58-2 (治安・犯罪防止)	間20-5 (基本方針5 自治)	間21-8 (土地利用・住環境)
8	間42-4 (社会教育)	間49-3 (労働工業)	間36-5 (子育て支援)
9	間42-8 (環境保全)	間58-2 (治安・犯罪防止)	間42-1 (土地利用・住環境)
10	間58-3 (治安・犯罪防止)	間36-5 (高齢者福祉)	間49-1 (産業連携・雇用)
11	間49-4 (労働)	間36-6 (高齢者福祉)	間49-3 (労働工業)
12	間36-3 (地域福祉)	間58-1 (治安・犯罪防止)	間42-4 (社会教育)
13	間59-1 (産業連携・雇用)	間21-7 (公園・緑地)	間36-3 (地域福祉)
14	間21-13 (防災)	間49-5 (農業)	間49-5 (農業)
15	間20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	間42-2 (公園・緑地)	間20-4 (基本方針4 産業)
16	間20-1 (基本方針1 生活・環境)	間42-2 (公園・緑地)	間58-2 (治安・犯罪防止)
17	間49-3 (労働工業)	間21-6 (環境美化・衛生)	間42-3 (治安・文化)
18	間36-6 (高齢者福祉)	間42-3 (治安・文化)	間21-13 (土地利用・住環境)
19	間21-7 (公園・緑地)	間42-3 (治安・文化)	間58-1 (治安・犯罪防止)
20	間21-6 (環境美化・衛生)	間21-12 (公共交通機関)	間21-12 (公共交通機関)
21	間49-2 (労働)	間21-11 (防災)	間36-2 (地域福祉)
22	間21-2 (防災)	間36-3 (地域福祉)	間42-5 (労働)
23	間42-2 (公園・緑地)	間36-2 (地域福祉)	間36-5 (子育て支援)
24	間21-1 (治安・犯罪防止)	間49-6 (観光)	間20-1 (基本方針1 生活・環境)
25	間21-3 (治安・文化)	間21-3 (治安・文化)	間42-2 (公園・緑地)
26	間36-5 (子育て支援)	間49-4 (労働)	間42-7 (公園・緑地)
27	間21-12 (公共交通機関)	間20-4 (基本方針4 産業)	間21-11 (防災)
28	間36-2 (地域福祉)	間20-3 (基本方針3 教育・生涯学習)	間42-7 (公園・緑地)
29	間49-6 (観光)	間21-5 (環境保全)	間49-2 (労働)
30	間20-2 (子育て支援)	間21-2 (防災)	間21-2 (防災)
31	間36-1 (労働)	間20-1 (基本方針1 生活・環境)	間21-3 (治安・文化)
32	間21-8 (土地利用・住環境)	間49-2 (労働)	間36-1 (労働)

●CS分析のまとめ

(スライドページ 20ページ)

- ・「生活満足度」「定住意向」「転居意向」の3つの視点で分析・比較すると **子育て・教育・医療福祉・公共交通・住環境・行財政・自治**が人口社会減対策に改善が必要な要素であることが分かる。
- ・中でも「公共交通」が75歳未満の世代のすべての上位にある。公共交通事業は採算がとれず赤字になりやすい状況があるが、人口流出を抑え、地域を支えるという点では大切な要素であることは間違いない。

39歳以下	40-64歳	65-74歳	75歳以上
子育て支援	地域医療	基本5 自治	子育て支援
行財政運営	行財政運営	土地利用・住環境	国際・地域間交流
公共交通機関	公共交通機関	公共交通機関	基本5 自治
高校・各種教育機関	地域福祉	安全な暮らし	人権
基本3 教育・生涯学習	基本2 健康・福祉	地域情報化	土地利用・住環境
子育て・教育・医療福祉・公共交通 ・住環境・行財政・自治 →人口社会減対策に改善必要な要素			

【質疑】

(参加者)

- ・これまでのまちづくりでは、「生活満足度」といった1つの物差しで測ってきたが、今日の講演会のお話しは、「結局は、現状の生活に満足しているが、それだけでは定住し続けられない」という理解でよいのか。

(鈴木先生)

- ・そのとおりである。生活満足度が重要ではないという意味ではなく、生活満足度の他に、定住意向や転居意向など、住み続けられるまちかどうかを測る必要があるということである。

=====**講演会の模様**=====



白老町の今後のまちづくりについて話す鈴木教授



白老

白老町の町民ら、専門家の講演やワークショップを通じて、白老の目指すべきまちの姿を考えたい。

住み続けたい白老に

未来フォーラム まちづくりテーマで専門家も講演

目指すまちの姿で意見交換

第1部は、総合計画策定委員会の委員も務める北海学園大学工学部生命工学科の鈴木聡士教授が「将来の白老町のまちづくりを考える」をテーマに講演した。

鈴木教授は日本の急激な人口減少に伴い、白老町の人口も現在の1万6000人台から2025年には8000人を切るという研究機関の予測値を説明。

「白老では、出生より死亡が多い自然減、転入より転出が多い社会減が共に進んでおり、人口減少時代を踏まえた持続可能なまちづくりが重要」と強調した。

また、町が4～5月に実施した「まちづくり町民意識調査」に関し、「若い世代ほど白老での定住意向が低くなるという結果が出た。白老に住み続けたいと思えるまちをどうつくるかが大切な」と指摘。定住する上で求められる施策として回答者の多くが挙げた「公共交通機関」「子育て支援」「行財政運営」の充実、強化などを進める必要性について話した。

第2部ではワークショップを実施。参加した町民がグループに分かれ、町の課題や対策など町民が白老の未来をめぐって意見を交わした。

子育て支援
公共交通充実

定住促すまちづくり

白老でフォーラム



まちづくりについて講演する北海学園大の鈴木教授

北海学園大・鈴木教授が提言

2020年度から8年間のまちづくりの指針となる第6次総合計画を策定中の

町が9日に開催。町民約60人が参加した。

鈴木教授は、町内の人口が45年に現在の半分の8千人以下になるとい推計を紹介。人口減少が進む状況では「子育て支援や公共交通の充実など、どうすれば人が住み続けられるかという視点でまちづくりを考える必要がある」と話した。

講演後にはワークショップが行われ、参加者がまちづくりについて意見交換した。

【白老】町の将来像について考える「しらおい未来フォーラム&まちづくりワークショップ」が、白老コミュニティセンターで開かれた。北海学園大の鈴木聡士教授(44)が「将来の白老町のまちづくりを考える」と題して講演した。

(金子文太郎)

「まちづくりワークショップ」

各班意見とりまとめ

(P7 ~ P19)

【目的】

現行の第5次白老町総合計画の策定から8年が経過し、その間、本町を取り巻く社会経済情勢も大きく変化した。

本町では、現在、第6次白老町総合計画の策定作業を進めており、その中で、町民一人ひとりが白老町の現状や課題などを知った上で、どのような町に住みたいかといった理想や自分自身に何ができるかを考え、様々な人と共有することが重要であるとともに、そういった考えを総合計画の中に組み込み、計画の実行性を高めることが大切である。

そこで、今回、本町の町民意識調査の分析をお願いしている北海学園大学の鈴木教授を招聘し、分析結果に基づき、これからのまちづくりに求められるものを主に講話いただくとともに、その後のワークショップにおいて、参加した町民一人ひとりが今一度白老町のことを考えるきっかけをつくり出し、ワークショップで出された意見や考えを第6次総合計画の策定に活かすことを目的に開催する。

【概要】

7～8人で1グループを作り、第1部の講演内容や、白老町の概要（統計・推計データ等）を踏まえ、ブレインストーミングを実施。なお、ブレインストーミングの流れは以下のとおり。

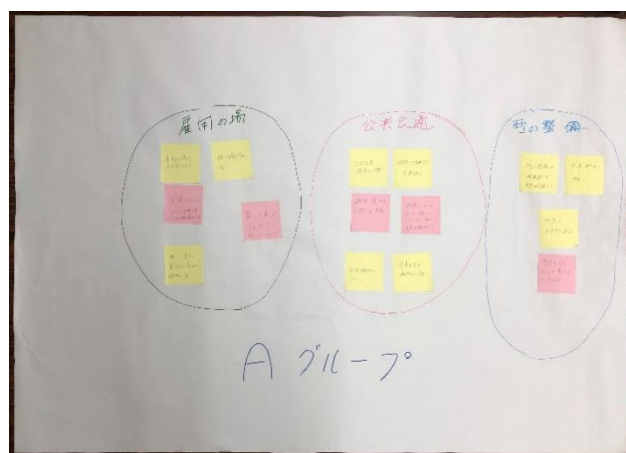
なお、進行役は講師である鈴木教授の進行により進められた。

時間	時間枠	詳細	
18：40- 20：15	95分	10分間	まちづくりワークショップと白老町の概略（人口、産業構造、経済的動向等）についての説明。 【資料：「白老町概要」参照】
		25分間	①自己紹介+参加者が考える町の課題や不安に感じることを黄色の付箋に出しながら話し合う。 ②出された課題に対する解決策や住み続けたい町の姿をピンク色の付箋に出しながら話し合う。
		20分間	それぞれ付箋にだされたものを、模造紙上で分類しながらまとめあげる。 例) 教育、公共交通、環境等、分類ごとに円でくくる。
		40分間	1グループ3分程度で話し合われたことを発表+共有

Aグループ

メンバー：浅利聡（白老青年会議所）、川合慶子（一般）、板谷一枝（一般）、外館博文（町内会長）
岡田路明（審議会委員）、日置典邦、藤元路香

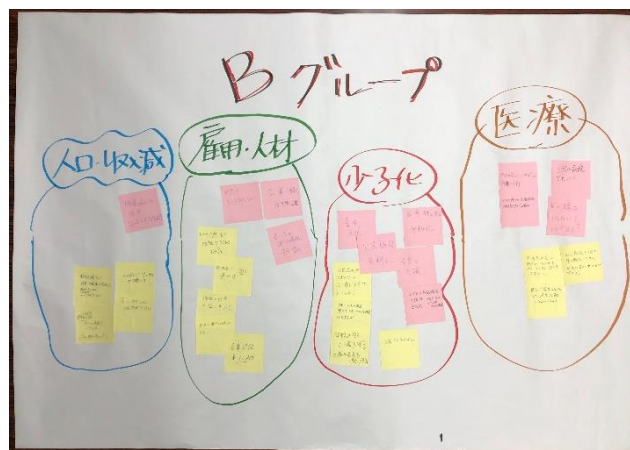
分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
雇用の場	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の場をどうしていくか ・働く場所がない ・若い人たちが楽しめる店や場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致 小さい企業でもいいから数を増やしていく ・若い人達のアイデアを聞いていかす
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関が不安 ・病院へ行くのに不便である ・宿泊施設が少ない ・食事をする場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、買い物に行ける手段 ・役場にコーディネーター役がいてくれると助かる（意見や話しなど）
町の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・町の整備や環境面を充実させてほしい ・水道料が高い ・地区の格差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民もできる範囲で草刈りを手伝う



Bグループ

メンバー：牧野直樹（審議会委員）、志田健（一般）、倉地美直（審議会委員）、大家正義（町内会長）
大石雄大、池田誠、飯島博光、加藤健斗

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
人口・収入減	<ul style="list-style-type: none"> ・税収減など白老の将来は大丈夫？（税・水道料が高くなる、サービスの低下など） ・人口減で買い物が不便に ・買い物をする施設が少ない ・財政 収入と支出のバランス(今のままで良いの?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品の活用（ふるさと納税）
雇用人材	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会が活動できなくなる ・町内会の担い手 ・福祉の仕事の担い手不足 ・若者の雇用の場が少ない ・企業誘致 人口減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・白老はベッタタウンに ・企業誘致の推進若い人の働く場所の創出
少子化	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の部活、スポーツが思うように出来ない ・白老で子どもの教育(学力やスポーツなどの機会)は大丈夫か ・学校の数が増える ・地域の活気が減少する ・出産する病院がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・産科病院 ・公共施設無料化 ・医療教育費の無料化 ・子育て支援 ・子どもの勉強場所の提供(夜まで勉強できるよう大人が監督) ・勉強会
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・全町民に安心・安全とはなにかを具体的に説明して下さい ・歳とって病気になったとき、通院が不便になるのでは ・町立病院を1日も早く開設して下さい ・町民に安心させて下さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の安心につながる医療の方針 ・町が様々な医療機関と連携できる仕組み ・民間の病院でもいい ・負の遺産はいらない



Cグループ

メンバー：廣野達也（大学教授）、菅原重義（町内会）、鴻野剛一（商工会）、川崎真也、吉田翔一
野崎駿亮

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源が十分に利用されていない（人、モノ、カネ、情報） ・産業創出が必要 ・地域資源の活用の推進 ・本屋がない ・お店閉まるのが早い ・産業の後継者不足 ・担い手不足 ・働き先の不足 ・勤労世代の激減 人手不足 ・経営者 ・技術者 高齢化 若返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光産業にすべてを関連付ける ・若手経営者創業支援 誘致
地域交通	<ul style="list-style-type: none"> ・東西に長い ・公共交通機関 ・道路ボコボコ ・地域分散化 ・医療福祉の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス ・苫小牧－登別間の早期4車線化
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び場 遊ぶところが少ない ・ベクトルの違い ・高齢化少子化のため、社会環境の変化についていけない ・誇りや愛着 ・夏が短い ・つどう場所 ・山深い ・閉鎖的？ 開放的？ ・地域のしきたり ある？ない？ ・空き家増加 廃墟が放置されている ・景観悪化 ・ウポポイと住民の関係性 ・補助金依存の体質 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の整備 ・オールしらおい ・有志の愛町活動 森づくり等 ・山MAP（地元版）



Dグループ

メンバー：吉田修（町内会長）、中谷通恵（NPOお助けネット）、中野嘉陽（審議会委員）、村上美優（報道機関）、鎌田吏、長尾拓哉、伊藤信幸、前田登志和

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
住	<ul style="list-style-type: none"> ・移り住みやすい物件が見当たらない ・白老に勤めていても苦小牧に居住している 	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい町の構築 ・コンパクトタウン ・400m圏内での完結する生活環境の構築
公共交通+α	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や通院に行きやすくしてほしい（増便） ・病院、買い物に行く交通網の不備 ・地区によっては商店が少なく買い物できない ・スーパー等、店の少なさ 広い上に移動が大変 ・免許返納はどうしようか ・高齢者の通院買い物等 交通機関が不便 ・スーパーなどの買い物できるお店が少ない ・小さなお店がなくなってしまいました。 ・買い物に行ける場所が少ない（スーパーが特に） ・歩くことも大変な高齢者の増加 ・バスやタクシーを利用するための案内が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気号・デマンドバスの継続 ・シェアカーやシェアサイクルを活用 ・通院のしやすさ向上（送迎等） ・公共交通の充実をお願いしたい
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医療で不足している診療科目に不安 ・医療環境の町内整備 ・病院通院大変です ・総合・専門病院がない ・医療の受け入れが整っていない何かあれば苦小牧へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の医師の充実を ・在宅サービスや施設の充実 ・町立病院の総合化、医師の補充
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客がたくさん来ても受け入れられるキャパがない ・観光に関する各施設や団体の連携が薄い ・自然が多くて素敵なのに、そこに行く手段がない ・昆虫・野鳥が少なくなりました 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉を活かしたまちづくり ・白老の自然は宝です ・観光客だけでなく、地元の人々も楽しめるまち ・町の人たちが良き・素敵さを町外に発信 ・「ならでは」の追求
働き方	<ul style="list-style-type: none"> ・商業団体のつながりがあまり強くない ・高齢者の中でも長寿命化の時代になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き生きと働く、建設・土木や一次産業の方を魅力ある切り口で紹介する

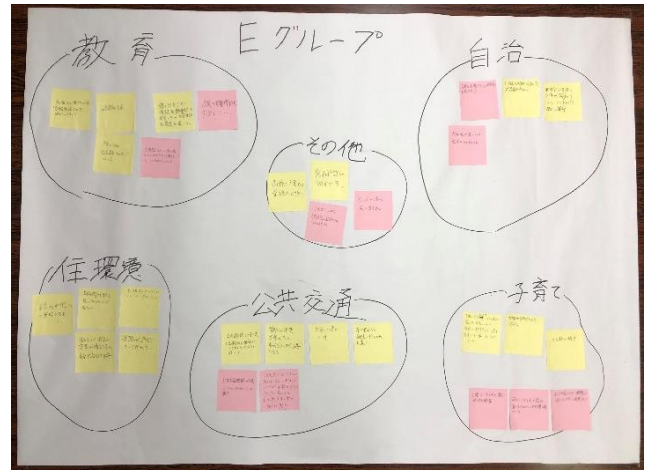
	<ul style="list-style-type: none"> ・定年を控えて元気な世代の地域貢献の新しい受け皿が少ない ・働き手の不足（特に資格をもつ人材） ・働く場が少ない ・企業の雇用に対する支援が見えにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIやICTの活用
財政	<ul style="list-style-type: none"> ・税金が高いといわれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉等の財源手当て
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関に偏りがある（場所・性質） ・学校が減り、通学の距離が長い地域がある ・いわゆる「学力」も高めたいですが、地元に残って働いてくれる子どものキャリア教育が不足している ・乳幼児の子育て世帯が休日保育がないため困っています ・子連れで安心して使える公共施設が少ない ・子どもや親子が遊べる公園が少ない ・ひとり親家庭や祖父母が育てている例もあり、多様な支援が求められています。 ・小学生の放課後や長期休みの遊びがゲーム・ネットに偏っています ・子育て中の親の経済状態に差が大きく不安な家庭が子育てに影響しています 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しくできるウポポイの公園や施設内で、小学生が放課後・休日等自由に遊べるといい ・「孤立」しないように小さなつながりを多様につくる。 ・関係者が連携する ・町内にある保育園のうち、一園で良いから、「休日保育」を行う



Eグループ

メンバー：糸田正博（審議会委員）、塚原光博（町内会長）、岩崎悦郎（町内会長）、横川裕子（NPOお助けネット）、野瀬征宏（審議会委員）、酒井孝輔、渡辺博子

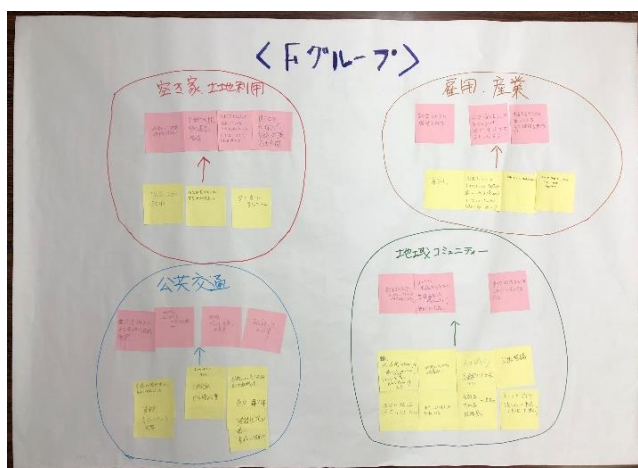
分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強する場所の不足（受験勉強などする場所がない） ・学校教育の充実 ・老後のために社会教育にもっとがんばってほしい ・娘（31歳）が簿記を勉強したいと希望したが、白老町ではその機会がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学童保育は素晴らしい ・図書館などに勉強できるスペース（個別ブース）をつくる
住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・本屋がほしい ・商店街がさびしい、夜になると人がいない ・住んでいる周辺に空き家が増えてきた安全面で不安 ・買い物するスーパーがどんどん少なくなる ・道路がでこぼこしているところが多い 	
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関が不便（高齢者で運転ができなくなった人など特に） ・買い物が不便 ・本屋がない ・車がどうしても必要 ・交通の便が不便 ・年を重ねると病院へ行くのが大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の充実 ・ニーズに合ったバスの運行 ・元気号バスはとても足のない方にはありがたいことだが、本数が少なくもう少し増えるともっと利用する方が増えると思う
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少なくなる中、子ども達が遊べる公園がない ・高校や専門学校、大学を卒業しても働くところがない ・出生数の減少による少子化 ・出生数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園など子どもが遊ぶ場所の整備 ・安心して子どもを産み育てることが環境づくり ・子どもが産みやすい環境と子育てのしやすい環境づくり
自治	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の活動に参加する若者が少ない ・町内会で子どもの行事が縮小している 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者にも町づくりに興味を持ってもらおう ・町内会で若い人の意見を取り入れる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・高校を卒業すると皆白老を出て行く ・宿泊施設が少なすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が働く場の創出 ・ウポポイに向けて大町商店の道路まわりをキレイにしたい



F グループ

メンバー：有江則雄（町内会長）、中村弘志（町内会）、北平美樹（NPOお助けネット）、大堀駿介
佐々木縁、早弓格、山越希

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
雇用・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用 ・社会人になって子供達が白老に戻れる環境が整っていない ・共働きできる環境があるか ・病気の子供の対応、病院、白老にあるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業しやすい環境をつくる ・インターネットショップ立ち上げ。誰でも出店できるようにする ・外国人をどんどんむかい入れる。その環境を整備
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園整備 ・人口、子供が減少、高齢化 ・子育て世代が転居（苫小牧、札幌へ） ・高齢者、障害者と若者の距離感 ・孤立している人が多数いる ・地域コミュニティの希薄化 ・子供に興味がない人が多数いる ・地域間、横と縦のつながり、地域で子供を育て合える環境が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生社会、ウポポイと障がい者との共生社会の育成 ・子供を家庭だけでなく、地域で育てる環境作り。親御さん支援 ・里親制度を利用しやすい環境を作る
空き家・土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅、土地活用 ・活気が足りていない。空き地が目立つ ・空き家が増えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉による健康維持 ・白老町をPR、移住者を増やす ・ウポポイによって高まっている白老への注目が引かないうちにPRを増やす ・民泊を利用した、空き家対策、定住対策
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪く、車がほぼ必須 ・公共交通、バス停改善 ・高齢による免許返納時の交通機関 ・商店、日曜休み ・道路状況が悪い（車椅子の使用困難） ・買い物、大型スーパー 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスの活用 ・デマンド交通の充実 ・地域循環バスの利用の便 ・広告収入による無料の交通機関

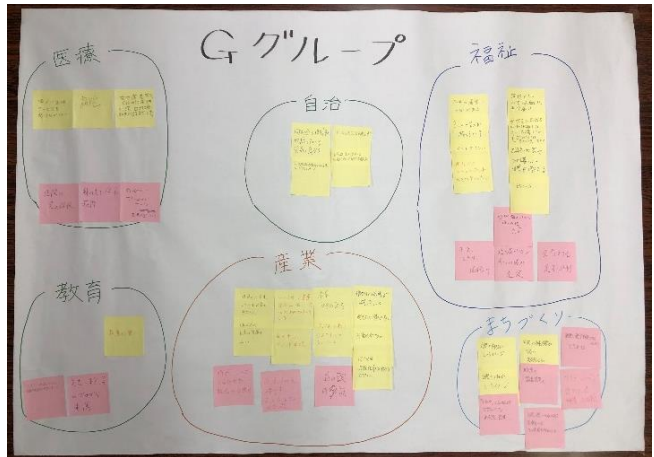


G グループ

メンバー：福田茂穂（観光協会）、川田幸香（一般）、宇都宮修（審議会委員）、菊地純、久保貢
一戸美佐子、金子智勇

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が少ない。通学に不安がある。外から子供の笑い声があまり聞こえない ・高齢化率が高い ・お年寄り世帯や1人暮らし世帯が増えている ・高齢世代と他世代との交流の場が少ない ・認知症 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい環境作り ・全町的な見守り体制 ・認知症の人も行ける「通いの場」充実
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・白老＝なにもない、田舎というイメージ ・町内の移動手段が少ない。元気号くらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎でなければできないこと、再発見、促進 ・元気号の路線見直し ・白老に思い入れのある若者もいる。その意見を守れるか ・通勤、通学（JR.バス）を充実する ・ライドシェア。白タク法解禁➡活用
自治	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の世帯数が減っている ・白老町民の受け入れ方はどうなのか ・安心して生活できるか ・子供達をどうやって白老に残ってもらうか考える 	
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・夜遅くに営業しているお店が少ない ・それぞれのお店の感覚が広い ・しいたけ生産量日本2位ということがあまり知られていない ・白老牛のブランド管理 ・道の駅 ・ウポポイ頼りの町づくりになっている ・働く場所が減っている。町外での仕事が多い ・共働きが多い ・18歳以降、定住（仕事・学校）できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代・ニーズに合わせた観桜の仕掛け ・交流人口を増やす。人×人レベルの交流 ・道の駅建設
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・満足に医療サービスを受けられない ・病院 ・在宅医療等少なく（訪問診療） 白老に最後まで居ることが大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・通院の足確保 ・身の丈に合った病院 ・白老町でコミュニティナースを配置してほしい

教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と親子のつながり連携 ・スポーツ交流などで魅力あるものを出していく
----	---	---



Hグループ

メンバー：林充紀（一般）、及川保（議員）、西村誠（一般）、中村雅之（一般）、藤澤文一、長澤真也
吉井雅晴、有賀麻美

分野	課題	解決策、暮らしたいまちの姿
地域資源観光	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の恵み、食の恵みを外に発信しきれてない ・温泉が普通の家庭に引いているところは日本でも珍しい。PR すべき ・白老牛、町民還元セール ・図書館や郷土資料館などの施設充実を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウポポイを核とした観光振興。町内の回遊性の向上 ・特産品、地場製品の提供、土産、飲食 ・文化施設、図書館、交流施設 etc が不十分 ・自然観光資源が生かされていない
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会活動が高齢化して機能していない ・限界集落になりかけている町内会がある。そろそろ合併をしても良いのでは（若い人の力が必要） ・若い人の地域のつながりがうすい ・地域コミュニティの継続。町内会役員のなり手不足。近所づき合いの希薄。災害時の避難 ・地域の住民同士のむすびつきが希薄 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも若いと感じる限り、地域で頑張ると意識づけ ・町内会やサークルなどの活動への呼びかけを活発に
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセス、JR、バス、タクシー、住環境 ・町民の足となっている「元気号」は更に充実すべき ・老後の不安。親の介護。年金の支給年齢ひきあげ 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の運行範囲の拡大 ・デマンド交通のきめ細やかな運行を行っていくべき ・乗り合いタクシー等の整備 ・公共交通機関の充実が大切だと感じた。しかし、予算もあるし、現状よりは望めないかも。ある程度は住民にも辛抱してもらえれば
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービス ・多言語対応 ・白老の魅力発信方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住後の生活スタイルを見える化する
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の働く場が不足。子育てしても町外に転出してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致も限界であれば、地元の企業で働ける対策を積極的に行うべき ・雇用の安定による所得向上。正規雇用による生活安定

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・やる事業を失敗ばかりして改善しない ・政策プロセス、結果、責任の所在を明らかにしてない ・職員の挨拶がない。暗い職場 ・住民への説明責任早く 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス業等から先生を呼び接遇研修の充実 ・国のキャリアの人に出向いてもらい新風を吹き込み職員のレベルアップ ・まちづくりのグランドデザインを提示し交通政策の策定か
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科に通うにも遠い ・若者世代の定住策が不足している ・公共施設のコスト高。東西に長い町であるため上下水、集会所、学校など ・町並みの景観対策廃屋の問題。不在地主の土地荒廃。ごみの不法投棄 ・細長い町並みで役場や医療、福祉施設が遠い 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要の施設をほぼ中心に建てるべき ・移住定住策を重点的にして中学校までの医療費の無料化 ・関係団体の横の連携を強化する

